

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	272101015		
法人名	有限会社サニーライフ		
事業所名	グループホームサニーライフ		
所在地 (電話番号)	〒038-2501 青森県西津軽郡深浦町柳田字桜田34-5 (電話) 0173-76-3666		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成20年10月24日	評価確定日	平成20年11月26日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 3月 17日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	7人, 非常勤 4人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	74 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鱒ヶ沢町立中央病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>深浦町の海岸沿いに位置しているため、ホームから日本海を眺望できる環境にある。ホームの裏には、菜園や東屋が作られ、思い思いに屋外で活動できる環境が整っている。屋内も明るく、職員も笑顔を絶やさず、入居者及び来客者に接しており雰囲気が穏やかである。観光名所も多数あることから、観光めぐりやショッピングなど外出行事にも力を入れて計画されている。日常的な散歩も行なわれているため、地域住民との交流も深く訪問者も多い。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員により理念の再検討がなされ地域密着に対応した理念が作成されている。栄養管理についても栄養士に依頼し定期的にチェックされている。また、糖尿病の管理も行われている。また、地域密着の事業所であることを全員で理解し理念が作られている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員にて自己評価を作成し管理者と職員が一体となって取り組んでいる。管理者が中心になり、それぞれの職員の意見をまとめて作成されている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は家族・地域住民の代表・地域包括支援センター・管理者・職員で構成されており、定期的な開催がなされている。自己評価及び外部評価について運営推進会議にて報告し、意見を頂き日々の業務改善につなげている。その他にもホームでの取り組みなどを報告し意見を頂き、全職員で話し合いながら改善に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族面会時や遠方の利用者には定期的に状況を報告し家族との関係作りに努めている。月に1回は広報誌を送付しており、担当職員によるコメントも同封して、日々の暮らしぶりを伝えると共に、家族の方に、日頃思っていることや気になる事などの意見を引き出す努力がなされている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>常日頃より外出を心がけ地域交流を深める努力がなされている。最近では取れた魚や野菜、山菜などを届けに來たりと訪問者も多く、地域に根ざした事業所となっている。</p> <p>町で開催されている「生きがい活動」にも参加され、月に1回は地域社会への参加としてショッピングや観光等の外出行事を行っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型に合わせた理念を、職員全員で検討して作成されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月、全職員で会議が行われており、管理者及び代表者も参加され、理念の共有や日々の業務について話し合いが行われている。 また、年に1回は代表者が職員に対しアンケート調査を行い、業務の改善や、職員を理解する取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	日常的に散歩を行っている。また、町で開催されている「生きがい活動」にも積極的に参加され、地域の方々と触れ合う取り組みがなされている。地域住民から、とれた魚や野菜、山菜などを届けてくれたりや訪問者も多く、地域への馴染みを感じられる。 外部からの見学にも対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価には管理者が主となり職員全員で作成されている。外部評価においても、評価結果を元に職員で話し合いが行われ、業務改善につなげている。その他にもホームでの取り組みなどを報告し意見を頂き、全職員で話し合いながら改善に向けて取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>外部評価の結果については運営推進会議にて報告し意見をもらい、職員で業務の改善などの話し合いが行われている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町で開催されているケアプラン検討会やケア会議に参加され、ホームの状況を伝えているとともに、必要に応じて相談するなど市町村と連携して取り組んでいる。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護を利用している入居者がおり、職員が制度について理解を深めることが出来るように勉強会が行われている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員全員にて勉強会を行い、虐待に対して理解を深めている。また、個々のケースに合わせて話し合いが行われ、福祉用具の活用により安全に行動できる環境を整備する取り組みがなされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には契約書、重要事項説明書等を用い十分時間を掛けて納得がいくまで説明を行い同意を得ている。</p> <p>重度化した場合の説明も契約の時点で行い、退居後のサービス利用についても相談に応じ本人・家族が不安のないように配慮している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>1ヶ月に1回、広報誌を送付している。また、日々の様子等が書かれた担当職員によるコメントも同封されている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情や要望を記入する用紙が設置され、いつでも誰でも記入できるような配慮がなされている。</p> <p>面会時には家族の意見を引き出せるように職員全員が配慮されている。</p>		<p>苦情受け付けの体制は十分取れているが、重要事項に担当者氏名の記載が見られなかった。また、苦情処理体制のマニュアルの整備が望まれる。</p>
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動が無く落ち着いたホームである。代表者・管理者とも職員が話しやすい環境作りに配慮し、いつでも相談できる雰囲気を感じられる。離職の際には、なるべくダメージのないようにさりげなく行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の採用時には各種マニュアルや運営規定等の資料を各自に手渡し、周知・徹底に努めている。外部の研修にも全職員が平均して参加できるように配慮されている。研修後は復命書の作成と、事業所内の勉強会にて講師になる等、研修を見直す機会と職員全員への伝達が出来るように取り組んでいる。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他市町村や同地区のグループホームと相互に見学をして交流を深める取り組みがなされている。また、同地区の特別養護老人ホームとの連携を深め、重度化した入居者の相談などが行われている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前面談や事前見学など入居前の関係作りに配慮している。入居後においては、職員が寄り添い、コミュニケーションを十分に取ながら、他の入居者との仲介をするなど、出来るだけ早く馴染めるように取り組んでいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は日々の生活の中で入居者とのコミュニケーションを常に心がけ、寄り添うケアに努めている。共に過ごす事により入居者の思いを引き出し、生活の中に取り入れる努力が見られている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにはセンター方式を使用され、生活歴など細かく記入がなされている。また、職員は日常的なコミュニケーションを心がけ、入居者に寄り添いながら思いや希望を引き出し、都度話し合いが行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを基に職員全員で話し合いが行われており、計画が作成されているが、介助項目に関する記載が多く生活の役割等、暮らしに着目した内容がみられない。		ケアプランに日々の役割や生活に関する内容を記載し、地域で入居者がその人らしく生活が続けられる様に作成していくことが望まれます。
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は定期的な見直しのほかにも、問題があれば適宜見直しが行われている。日々の様子も毎日記録され、必要に応じて担当者会議を開催し見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診にはホームで対応している。その他、美容院など個々の希望に合わせた外出支援が行なわれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関に受診されている。主治医変更の際には、本人、家族に十分説明し変更が行われている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に対して、入居時に、本人、家族に説明が行われている。同地区の特別養護老人ホームと連携を密にし対応している。状況に応じて他施設の紹介や在宅復帰の支援など、他事業所との連携に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時、個人情報の使用に関する同意書を説明し、署名捺印を頂いている。管理者は職員に対し個人情報保護の重要性を、会議等の場において全職員に伝えている。		同意書及び職員に対する個人情報保護の重要性についての説明は行われていたが、明文化された物がなく、今後の整備が望まれる。
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員配置も多く、ゆったりとした業務スケジュールであり、共に過ごせる時間を大切に日々取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>メニューは職員で相談しながら作成されている。地域住民による届け物があった場合には、随時メニューを変更して食を楽しんでいる。</p> <p>食事準備やあと片付けに入居者も加わり、食事中には職員も一緒に食事を摂っており、会話・笑顔も多く和やかな雰囲気が感じられる。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週3回の入浴と入浴できない時には清拭・足浴で対応されている。また、希望があればいつでも入浴できる体制ができている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者は、掃除や食事準備など一人ひとりが役割を持ち日々の生活を送っている。アセスメントや日々のコミュニケーションの中から個人に合わせた対応を実践している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>ホームの裏には菜園があり、入居者と共に作業を行っている。また、東屋も設置されており、なるべく屋外で過ごせるように工夫されている。</p> <p>常日頃より散歩に出かけるようにし、地域住民と触れ合う機会を多く持てるように努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>勉強会により身体拘束の法規や身体拘束による弊害等、勉強会にて職員の周知徹底に努めている。契約書にも記載され、入居時に詳しく説明されている。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>夜間のみ施錠し、日中は鍵を掛けず、徘徊者への対応として玄関にセンサーを設置している。外出は自由であり職員が付き添っている。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>火災や津波等の災害を想定して、年2回の避難訓練を実施している。一人ひとりの避難袋を準備して居室に置かれている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>メニューは職員が作成しているが、栄養面について年に1～2回程度、栄養士の指導を受けている。糖尿病食の管理も行われている。本人の嗜好に合わせて代替品も用意されている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルが作成され適宜見直しも行われている。勉強会を通じ、職員の理解を深め、日常的に感染予防に努める努力がなされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には、入居者で作成された飾り付けや季節に合った花を飾ったりと、季節感も出されている。廊下にも椅子が設置され、思い思いの場所で過ごす事が出来るように配慮されている。 食事準備の際には御飯を炊いている香りや炒め物の香りが漂い、生活感が感じられる。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>持ち込み品に関しては制限なく、それぞれに使い慣れたものが置かれている。ベッドの高さや個々に合わせた手すりの設置など、安全に動ける環境にも配慮が見られる。</p>		

 は、重点項目。